

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.20 2007年11月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

マイクロソフト、ユニファイド・コミュニケーション ソフトウェア製品群の提供開始

マイクロソフト株式会社(東京都渋谷区)は、ユニファイド・コミュニケーション(UC)ソフトウェアの日本市場向け提供を11月1日より開始した。今回の発表にあわせて、大手企業5社が採用を表明し、20社以上のパートナー企業が対応製品とUC構築サービスなどの提供を発表している。

今回発表された UC ソフトウェア、サービス、デバイス

(1)「Microsoft Office Communications Server 2007(OCS 2007、マイクロソフト・オフィス・コミュニケーションズ・サーバ 2007)」。Microsoft Office System(Word、PowerPoint など)アプリケーションなどに、音声・映像通話、インスタントメッセージ、Web会議、プレゼンス(在席情報)などのコミュニケーション機能を提供するサーバ。UCの核となる製品。

(2)「Microsoft Office Communicator 2007(OC 2007、マイクロソフト・オフィス・コミュニケーター 2007)」。PC、携帯、インスタントメッセージ、映像通話などを可能にするクライアント PC にインストールして使用するソフトウェア。Microsoft Office Professional Plus 2007、Microsoft Office Enterprise 2007にも同梱。

(3)「Microsoft Office Live Meeting(マイクロソフト・オフィス・ライブ・ミーティング)」。SaaS型のWeb会議サービスの最新バージョン。

(4)「Microsoft RoundTable(マイクロソフト・ラウンドテーブル)」。360度の全方位カメラを内蔵した会議用電話システム。Web会議を行ったりする際にカメラ部として利用する。会議室とその参加者の様子をパノラマ画像として撮影し、声と顔の輪郭を基に発言者を追跡表示する機能なども備わっている。40万円程度と言われている。



Microsoft RoundTable: 本体上部には360度カメラが内蔵されパノラマ映像を捉えることが可能になっている。



RoundTableを使ったOffice Live Meeting: 360度カメラを使うことで相手側の様子をパノラマビューで表示する。

(5)「Microsoft Exchange Server 2007 Service Pack 1(マイクロソフト・エクスチェンジ・サーバ 2007)」。電子メール、ボイスメール、ユニファイドメッセージ機能を提供する。

20社以上のパートナー企業が同時に UC 関連の連携、ソリューション、サービスなどを発表

今回マイクロソフトが発表するにあたって、UC と PBX(社内電話システム)との連携、UC ソリューション構築、UC 向け端末の3分野において 20 社以上のパートナー企業も、マイクロソフトの UC 向けの新しい製品やサービスの発表を同時に行っている。

(1) UC と PBX (社内電話システム) との連携:

電話システムメーカー各社が、Office Communications Server 2007 と連携したソリューションの開発を発表した。

それらの企業は、日本電気株式会社、沖通信システム株式会社、富士通株式会社、株式会社日立コミュニケーションテクノロジー、株式会社ネクストジェン、ノーテルネットワークス株式会社、日本アバイア株式会社、シスコシステムズ合同会社、となっている。

以下はリリースを発表している企業をベースに各社の発表概要をまとめた。(CNAレポート・ジャパンで把握している分)

各社発表概要:

沖通信システムは、同社の「IP CONVERGENCE Server SS9100 (IP コンバージェンス・サーバ SS9100)」と OCS 2007 を連携するゲートウェイ「Convenie Talk CSTA-GW」の開発を発表。

ネクストジェンは、OCS 2007 と日立コミュニケーションテクノロジー製を初めとする PBX や SIP サーバとの相互接続を可能とする相互接続サーバ(OCS 連携相互接続サーバ)の開発を表明。

日立コミュニケーションテクノロジーは、同社の IP テレフォニーサーバ IPTOWER-SP シリーズ TM-II の機能を拡張し OCS 2007 に対応させると発表。

日本アバイアは、「Avaya Application Enablement Services(IP-PBX ソフトウェア Avaya Communication Manager の CTI 連携に用いるミドルウェア)」を OCS 2007 に

対応させ、「Avaya Unified Communications Solutions for Microsoft」として提供すると発表。

日本電気は、3分野において連携製品の開発と拡販を行う。PBX との連携では、OCS2007 と接続可能な IP テレフォニーサーバ「UNIVERGE SV7000」を提供すると発表。NEC が PBX 事業で培ってきたビジネス向けの機能や装置障害・停電等への対策など信頼性の高い電話機能を OCS2007 ユーザも活用できると説明。

(2) UC ソリューション構築: UC 技術トレーニングプログラムを履修した9社のパートナー企業が UC 構築サービスを提供する。

それらの企業は、日本ユニシス株式会社、株式会社大塚商会、三井情報株式会社、日本電気株式会社、NEC ネットエスアイ株式会社、株式会社富士通ビジネスシステム、株式会社日立情報システムズ、アクセンチュア株式会社、アバナード株式会社。

各社発表概要:

株式会社大塚商会は、「Microsoft Office Communications Server 構築支援サービス」を発表。Microsoft RoundTable やポリコム CX シリーズ OCS 2007 専用電話機を提供し、マイクロソフト製、ポリコム製両製品を同時に提供構築が可能と説明している。Active Directory を中心としたマイクロソフト製品構築実績が多い。4年連続でマイクロソフトワールドワイドアワードを受賞実績がある。

日本ユニシスでは、「Communications Server 2007 構築サービス」の提供開始を発表。OCS 2005 での構築実績と OCS 2007 早期構築プログラム参加や Exchange Server 2007 などの評価検証も行った。「リアルタイムコミュニケーション環境構築」、「リアルタイムコラボレーション環境構築」、「Communications Server 2007・IP 電話連携環境」各種サービスの提供を予定している。OCS 2007 導入では、日産自動車、カプコンに構築サービスを実施している。

三井情報は、「Microsoft Office Communications Server 構築支援サービス」を発表。Microsoft Exchange Server や LCS2005 (OCS 2007 前バージョン) などのソリューションの他、LCS2005 を基盤とした海外 IP テレフォニーシステム対応のプレゼンス管理ツール「MKI Smart Communicator (MKI スマート・コミュニケーター)」の開発実績あり。OCS2007 のプレゼンス、VoIP 環境の構築、IP テレフォニーシステムとの統合環境を構築するサービスを提供する。

日本電気は、OCS2007 と SIP 対応 IP テレフォニーサーバ「UNIVERGE SV2007 (ユニバージ SV2007)」を連携させるミドルウェアソフト「UNIVERGE OW5000」を使用したユニファイド・コミュニケーションを拡販する。共同マーケティングの実施や Office アプリケーションと IP テレフォニーを融合させたコミュニケーションシステムの提案を予定。2008 年度にグローバルで 100 社へのシステム導入を目指す。

NEC ネットウェアアイは、同社が提供する「EmpoweredOffice (エンパワードオフィス)」ソリューションを軸に中堅企業向けにユニファイド・コミュニケーション事業を本格化する。NEC の「UNIVERGE SV7000」とマイクロソフトの「OCS2007」は、EmpoweredOffice ソリューションの中核となるシステム。同社本社 1 階に開設した「EmpoweredOffice Center (エンパワードオフィス・センタ)」では UC のデモンストラーションを行っている。

(3) UC 向け端末：

7社のメーカーが、OCS2007 及び OCS2007 向けの、電話機、ハンドセット、ヘッドセット、ワイヤレス電話、ゲートウェイ、モニターなど UC 環境で稼働する端末をこれから日本市場へ提供していくという。日本市場に製品を提供するデバイス・パートナーは、以下の7社。日本電気株式会社、ノーテルネットワークス株式会社、ポリコムジャパン株式会社、GN ジャパン株式会社、日本サムスン株式会社、AudioCodes Ltd、F5 ネットワークジャパン株式会社。

各社発表概要：

日本電気は、OCS2007 と接続可能な周辺機器を NEC が開発・販売する。PC と接続 (インターフェイスは USB) し通話に利用するハンドセット「UTR-UC-1」を 11 月から発売予定。PBX と OCS2007 を接続する「メディアゲートウェイ」を開発中。12 月に発売予定。

ポリコムジャパンは、UC 環境上で動作する VoIP 電話機「Polycom CX シリーズ」を提供する。(別記事で詳細レポート)

日本サムスンは、OCS2007 に最適化され、USB カメラ・マイク・ステレオスピーカーを一体内蔵する 22 型ワイド液晶モニター「SyncMaster 225UW」を日本市場で発売することを発表。発売時期は、2007 年年末を予定。カメラは、200 万画素内蔵 CCD カメラ。解像度 1680x1050、表示色数は約 1677 万色、輝度は、300cd/m²。

ポリコムジャパン、Microsoft Office Communications Server 2007 専用の電話機 4 機種提供を開始

ポリコムジャパン株式会社 (東京都千代田区) は、Microsoft Office Communications Server 2007 (マイクロソフト・オフィス・コミュニケーション・サーバ 2007、以下 OCS 2007) 専用 VoIP 電話機「Polycom CX シリーズ」の4機種を日本国内で提供開始した。

Polycom CX シリーズは、ポリコムの Platinum 認定代理店で、マイクロソフト株式会社の認定ゴールドパートナーである株式会社大塚商会 (東京都千代田区) より販売される。

Polycom CX シリーズは、OCS 2007 の機能を活用しながらエンドツーエンドの VoIP の音声通話を可能とするソリューション。

製品としては、「Polycom CX100」スピーカーフォン、「Polycom CX200」デスクトップ電話機、「Polycom CX400」コードレス電話機、「Polycom CX700」IP 電話機の4製品で構成され、全ての機種は、HD (広帯域) 音声と全二重音

声(双方向通話)に対応している。



Polycom CX100

Polycom CX100 スピーカーフォン、Polycom CX200 デスクトップ電話機、Polycom CX400 コードレス電話機は、プラグアンドプレイの Office Communicator 2007 の周辺機器として PC に USB で接続して使用する。そのためドライバーのインストールは必要ない。一方、Polycom CX700 IP 電話機は、WindowsCE と Office Communicator 2007 クライアントを搭載したスタンドアロン型の電話機となる。

Polycom CX100 スピーカーフォンは、Hi-Fiステレオマイクを備えたコンパクトでポータブルなスピーカーフォン。オフィスでの少人数での会議だけでなく、外出先や出張先などでもノート型 PC を使用して電話会議を行える。ボタン操作で着信したコールの応答や切断、ミュート(消音ボタン)のオン・オフ、ボリューム調整を行える。

Polycom CX200 デスクトップ電話機は、USB 接続のデスクトップ電話機で、ハンドセットとヘッドセットの両方に対応。またプレゼンス状態を示す LED を搭載。



Polycom CX400

Polycom CX400 コードレス電話機は、USB 接続の小型ベースステーションを備えたコードレス電話機。プレゼンス状態と呼情を表示するカラーLCDを採用し、約 10 メートルの範囲での受信が可能。

連続 10 時間通話などの機能を備える。また、ワイヤレスの PowerPoint コントロール機能も搭載する。ディスプレイ上の表示は 2007 年 10 月現在英語のみ。



Polycom CX200



Polycom CX700

Polycom CX700 IP 電話機は、5.7 インチのカラータッ

チスクリーンから相手を選んで相手に通話することが可能。プレゼンスの情報を示す LED を搭載し、USB と 10/100M イーサネットポートを装備。バイオメトリックス指紋リーダーなどの機能もある。

Polycom CX400 及び Polycom CX700 のディスプレイ上の表示は 2007 年 10 月現在英語のみ。

価格(メーカー希望小売価格税込み)は、Polycom CX100 が 22,995 円、PolycomCX200 が 24,675 円、Polycom CX400 が 31,920 円、Polycom CX700 が 106,890 円となっている。

アドシステムズ、小規模から大規模運用まで対応した音声会議多地点接続装置を販売

株式会社アドシステムズ(東京都立川市)は、音声会議装置「IP Meeting(アイピーミーティング)」を開発、販売している。

IP Meeting は、SIP 対応の音声会議多地点接続装置で、最大 1500 のポート容量を持ち、接続可能な端末は、IP 電話やソフトフォンだけではなく、固定電話や携帯電話までサポートしている。企業での用途以外にも、通信事業者向けのシステムとしても提供している。そのため、音声品質を特に重視して設計開発しているという。

「IP 電話など VoIP 通話で発生する通話エコーを解決するために 128ms 長のハードウェアエコーキャンセラーを実装し、高品質な音声品質(QoS)を提供したいと考えた。」(アドシステムズ)

IP ネットワーク通信する端末は、回線交換(通常の電話回線)と違いパケットの送受信で通信するためネットワークの影響を受けやすい。つまり、ネットワークが混雑した場合音声品質が一時的あるいは断続的に劣化する可能性がある。QoS はそういったネットワークの不安定性を補正する機能である。特にビジネス用途での通信にとって QoS の考え方は非常に重要である。

その他音声については、オート・レベル・コントロール(ALC)やアダプティブ・ノイズ・リダクション(ANR)などもサポートしている。



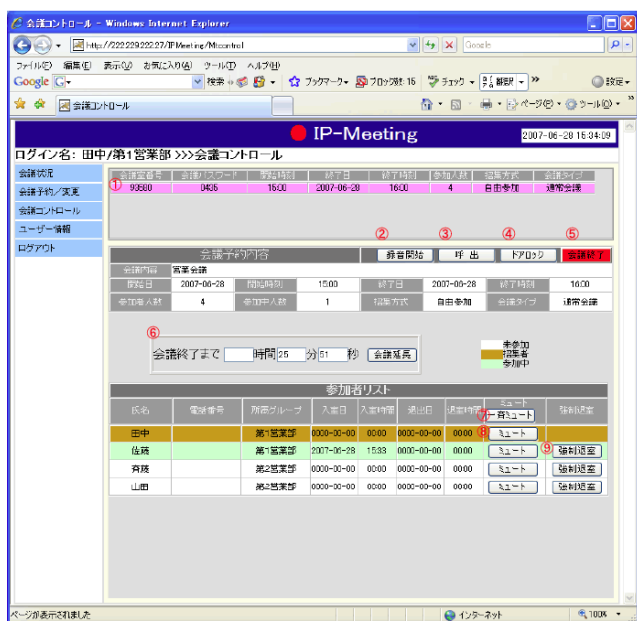
IP Meeting (1U タイプ)

IP Meeting システムは、小規模にも対応できるように、最小構成の 64 ポートから 1500 ポートまで 6 モデルを提供している。IPM-60(64 ポート、同時会議室数 20 室)、IPM-120(128 ポート、40 室)、IPM-250(250 ポート、75 室)のモデルは、19 インチラック/1U タイプの筐体。一方、IPM-500(500 ポート、150 室)、IPM-1000(1000 ポート、300 室)、IPM-1500(1500 ポート、450 室)のモデルは、19 インチラック/4U タイプの筐体にて提供している。その他、パソコンの PCI バス接続用のユニットも提供しており、既存のサーバに回路ボード(VoIP ユニット)を接続することで IP Meeting の機能を提供することも可能。



IP Meeting (4U タイプ)

基本的な会議機能としては、会議の予約、予約確認メール発信、会議中の延長(15分単位)などのユーザが通常使用する機能(ユーザー機能)から、会議の主催者やシステム管理者向け(マネージャー機能)のユーザ登録、会議コントロール(ミュート、ドアロック、強制退室など)、会議の予約状況や履歴表示、接続ログなど標準的な会議機能を持つ。



会議予約画面-パソコン

これらの機能は、ログインして使用するが、PC だけではなくインターネットが可能な携帯電話からも接続してログインすることで各機能が操作できる。さらに、SSH による遠隔操作、NTP(インターネット時刻調整)、ファイルダウンロード機能などもある。

会議開催時には、開催の15分前から入室が可能で、最初の入室者には次の参加者が入室するまでの間BGM音楽が流れる。「最初の参加者は、会議室に隣接した中待合室で会議の始まりを待つような形になる。その間音楽を流すことが可能だ。」(アドシステムズ)音楽は、ユーザが好みによって音楽ファイルを作成することができる。無音であると接続しているのかどうか不安になる場合があるためこういった機能を提供している。音声会議では一般的な機能だ。

会議室入室に際してのセキュリティは、会議日時など詳細を明記した予約確認メールに、会議IDとパスワードを入力

(電話のDTMFトーン:ピポパの音)して会議室に入る形をとる。さらに、ユーザIDも付加させることでセキュリティを高めることも可能。

会議予約画面-携帯電話



会議開催側は、会議中、IP Meeting に PC からログインして参加者状況を表示する(ブラウザ表示)ことで、参加者の接続状況を確認しながら、会議を進行させることができる。それに加え、必要に応じて、参加者へミュートをかけたり、強制退室させたりといった操作もその画面上で行える。基

本的には、主催者は、この画面を表示しておきながら、会議進行したほうが便利と思われる。

会議の方法には、参加者が自由に発言をすることができる「通常会議」と、ある特定の発表者のみが発表などを行う方法を想定した「一斉同報」の2タイプがある。「一斉同報は、会議の最初から聴講者は全員ミュート(発言ができない状況)したような方法。もちろん、会議進行中にミュートを解除することで通常会議にも柔軟に変更できる。」(アドシステムズ)

また会議に必要な録音機能も提供しており、会議後の議事録機能として活用ができる。この機能は、6モデル全てにオプションで提供されている。

アドシステムズは、IP Meeting 以外にも NGN に向けた製品開発を行っている。「当社では、2007 年より NGN 市場に向けた製品開発を行っている。具体的には、ATCA 版サービスプラットフォーム“Convoi-EV”の開発で、現在の Convoi を NGN 向けに進化させたプラットフォームをベースに、主に音声系ネットワークサービスのアプリケーションを提供する考えだ。さらに、従来 ISDN などで実績のあ

る試験評価装置を NGN 向けとしても開発を行っている。」
(アドシステムズ)

アドシステムズは、1982 年設立。アナログシュミレーター「X シリーズ」や ISDN シミュレーター「i シリーズ」など回線疑似交換機や試験評価装置などで実績を持つ。現在は、試験評価装置などの開発、販売、保守などとともに、IP ネットワーク向けの各種接続装置などの開発、販売、保守なども行っている。国内外に開発や販売パートナーを持ち、東京大学など大学などと連携による産学共同による製品開発(地電位差測定転送装置や音声認識認証技術など)も積極的に行っている。

キャノンソフト情報システム、Web 会議システム「IC³」の機能を強化

キャノンソフト情報システム株式会社(大阪府大阪市、旧蝶理情報システム)は、9 月 25 日より Web 会議システム「IC³(アイシーキューブ)」バージョン 7.02-02 の販売を開始した。

IC³ は、利用環境に応じた帯域制御が可能な映像配信技術とスムーズなデータ共有機能を特長とし、Windows PC とブラウザがあれば、ビデオ会議や遠隔 PC/アプリケーションの共有ができる Web 会議システム。

今回の機能強化は、同社からのニュースリリースによると、(1)Web 会議室の予約画面のビジュアル面強化、(2)IC³ 登録ユーザの検索、ソートが可能になった。(3)IC³ 登録ユーザにタグを利用した属性情報を付加することが可能になった。(4)会議中のファイル転送をサポート。(5)会議開始時、カメラからキャプチャサイズ設定が可能になった、などがあると説明している。

新バージョンのメリットとしては、(1)従来版よりスムーズな会議入室を実現し事前の利用説明などの準備を簡略化できる。(2)IC³ 登録ユーザの管理が容易になり、管理者負担を軽減。(3)ファイル転送の標準サポートにより、さらに便利なコラボレーション環境が可能になる。

2005 年 2 月から販売開始している。国内では企業での採

用以外にも OEM 供給で IC³ をプラットフォームとしての Web 会議システムや ASP サービスなどで活用されている。今年の 3 月には、中国向けとして上海威速信息科技有限公司と提携している。

(関連記事:製品発売:Vol.7 No.4 2005 年 2 月 28 日号、IC³プロダクトレポート:Vol.8 No.22 2006 年 8 月 31 日号など)

ヤマハ、ステレオ再生に対応し、マイクアーム方式を採用した Web 会議用 USB 接続マイクスピーカー



PJP-25UR

ヤマハ株式会社(静岡県浜松市)は、Web 会議用マイクスピーカー「PJP-25UR」を 12 月上旬から発売する。Web 会議は、パソコンを使うため通常ヘッドセットで行うが、このマイクスピーカーを使うことで、ヘッドセットを使わずに、ハンズフリーで Web 会議が行えるもの。

PJP-25UR は、B5 ノートパソコンサイズよりも小さい三角形の小型ボディに、アレイマイクとスピーカー、ヤマハ上位モデルと同様の適応型エコーキャンセラーを搭載した USB タイプのマイクスピーカー。

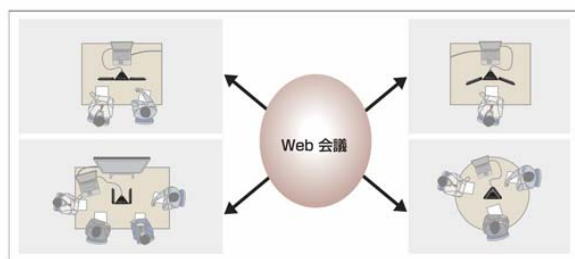
電源は、パソコンの USB (2.0 Full Speed) バスパワーにより動作するが、別売 AC アダプタも用意しているため、PC の電源に頼らないセルフパワー駆動も可能。

本体には 12 個(4個x3列)の狭志向性アレイマイクを装

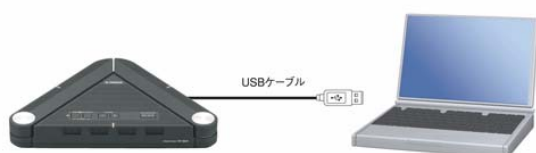
備し、2本のマイクアームを可動式とすることで、会議シーンにあわせて收音範囲設定を行える。收音する範囲や方向に応じてマイクアームは開閉が行える。また、スピーカーは、2個搭載し、モノラル再生だけでなくステレオ再生モードも搭載している。



これまでのWeb会議用マイクスピーカーにはなかった可動式マイクアーム



PJP-25URをWeb会議と連動させることで、多地点・多人数の会議ができます。



ACコード要らずのUSBバスパワーで作動します。

「PJP-25URは、出張先からWeb会議を高音質で行うことも、商談やインタビューの議事録記録用マイクとしても利用できる。また、ステレオ再生機能を搭載しているため、PCと接続してステレオ音楽再生も行える。」(ヤマハ)

重量は570g。アナログ入出力各1個装備(ステレオミニジャック)本体は、三脚上にねじ止めができる。

接続するパソコンは、Microsoft Windows Vista、Windows XP Professional/Home Edition。CPUは、750Mhz以上のIntel Pentium/Celeron 互換プロセッサ、必要メモリは、

128Mb以上(推奨256MB以上)。

PJP-25URの希望小売価格は、60,000円(税抜き)。「販売については、全国の商社、Web会議事業者の他、PC周辺機器、オフィスツールを販売されている事務機器商社、カメラ量販店などにも幅広くお取り扱いいただく予定。」(ヤマハ)

ヤマハ、会議システム製品などが2007年グッドデザイン賞を受賞



プロジェクトフォン PJP-50R



プロジェクトフォン・フィッシュアイカメラ PJP-CAM1

ヤマハ株式会社(静岡県浜松市)は、財団法人日本産業デザイン振興会(東京都港区)が主催する2007年度グッドデザイン賞で、会議システム機器など6点がグッドデザイン賞を受賞したと発表。

グッドデザイン賞(Gマーク)は、昭和32年(1957年)に当時の通商産業省によって創設された「グッドデザイン商品

選定制度」を継承する総合的なデザイン評価・推奨システム。2007年度は4月に募集を開始し、同振興会が約3ヶ月にわたって審査を行った。ヤマハは、昭和32年から合計222点の商品がグッドデザイン賞の選定を受けたが今回は6点受賞した。

その中にプロジェクトフォン「PJP-50R」(2006年12月1日発売)、プロジェクトフォン・フィッシュアイカメラ「PJP-CAM1」(2007年7月31日発売)の会議システム2点が入った。

ブイキューブ、アカマイとPC・携帯同時映像ライブ配信を実現

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)とアカマイ株式会社(東京都港区)は、両社の有する最新技術を連携させることで、PC・携帯同時映像ライブ配信を実現した。ブイキューブがサービスとして11月中旬から提供している。

このサービスは、メディアエンターテイメントにおけるライブ中継だけでなく、インターネットを利用したテレビ会議や企業研修の場などでの活用を想定している。

PCライブ配信では、撮影した映像をアドビ システムズのエンコーダ「Adobe Flash Media Encoder Version 2(以下FME2)」を用いて、アカマイのAdobe Flash向け配信インフラ「Live Streaming For Adobe Flash(Live!Flash)上で実現する。

一方、携帯ライブ配信では、撮影された映像がFME2でエンコードされ、ブイキューブのオンラインセミナーサービス「nice to meet you セミナー」によってセミナーコンテンツ化する。

さらに、映像トランスコードサービス「nice to meet you トランスコーダー」と株式会社 ISAO の「MOVIEFULL(ムービーフル)」によりセミナーコンテンツ及び映像情報が携帯電話向けに最適化され、アカマイ配信プラットフォームを通じて映像配信を提供する。これにより、ユーザは PC だけでなく携帯電話でも、映像と資料を見ながらセミナーに参加することができる。

ブイキューブの nice to meet you セミナーサービスを利用し

ているあるネット証券大手マネックス証券株式会社では、一ヶ月で40回以上のセミナー配信が行われており、合計5000人以上が参加しているという。今回のサービスでオンラインセミナーの配信を携帯電話へも行えるようになるためセミナー参加者が増加するとマネックス証券では考えている。

製品・サービス動向-海外

ノルウェー タンバーク社、マイクロソフト OCS2007 との相互運用性の実現へ

ノルウェーのビデオ会議メーカー タンバーク社は、同社のビデオ会議システムとマイクロソフトの「Microsoft Office Communications Server 2007」との相互運用性を実現する計画を発表した。

相互運用性の実現すると、両社のシステムが相互に通信が行えるようになるということ。

たとえば、PC ユーザが、在席表示機能とメッセージング機能を使用して簡単なやりとりを行い、その後ビデオ会議へと移行することが可能になる。

米 Premiere Global Services 社、ノルウェーの会議サービス事業者の買収を発表

米 Premiere Global Services 社(プレミア・グローバル・サービス、PGS)の11月8日のプレス発表によると、同社はノルウェーオスローに本社がある Meet24 社を2640万USD(約29億3700万円)で買収したと発表。

PGS は、電話会議、Web 会議サービスをワールドワイドに提供している Premiere Conferencing のグループ会社を持つ。

Meet24 社は、NetConnect Systems 社の会議サービス事業部門で、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、デンマーク各国で事業展開を行っている。2007年の売上は、1400億USD(約15億6000万円)。

また PGS は、米会議システム専門調査会社 Wainhouse Research 社(<http://www.wainhouse.com>)の統計市場を引

用し、それによるとスカンジナビア各国トータルの市場は 1 億 3500 万 USD(約 150 億円)という。この規模は全ヨーロッパ市場の 18%にあたる。

米 Intercall、Microsoft Office Live Meeting 2007 のサポートを発表

米 West Corporation 社傘下で、電話会議並びに Web 会議サービス等を提供する米 Intercall 社が、マイクロソフトから発表になった、Web 会議サービス「Microsoft Office Live Meeting 2007」をサポートすると発表。

Intercall 社の顧客ユーザへ Web 会議サービスとして提供する。

Intercall 社は、1991 年設立の会議サービス事業者。2003 年に West Corporation 社に買収され傘下に入る。West Corporation 社は、2004 年には、米通信事業者 Sprint の会議サービス部門を 2 億 700 万 USD で買収。2006 年には Web 会議大手 Raindance 社も傘下にしている。

West Corporation 社は、1986 年にインバウンドテレマーケティング事業会社として設立され、その後コミュニケーションソリューションのアウトソーシングを事業の軸においた展開を行っている。(関連記事:Vol.8 No.6 2006 年 2 月 28 日)

【CNA レポート・ジャパン橋本の補足】

会議サービスを提供する事業者で Web 会議サービスを提供する場合、自社開発のシステムを提供するか、既存システムを再販する形で提供している場合の 2 パターンが多い。後者の場合は、マイクロソフトの Live Meeting であったり、WebEx の Meeting Center、あるいは WebDialogs(先日 IBM に買収された Web 会議米大手)などが多いと言われている。

会議サービスを提供する事業者は、一般に電話会議、Web 会議、テレビ会議などの多地点サービスを時間貸して提供する。英語では、Conferencing Service Provider(略して CSP)あるいは、Conferencing Service Bureau(CSB)などと呼ばれているが、一般的には前者を使う場合が多いと思われる。

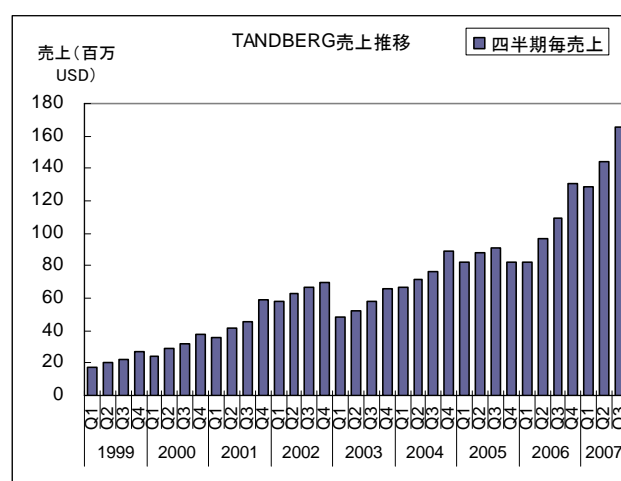
る。PGI や Intercall はこの範ちゅうにはいる。

最近では、ユニファイド・コミュニケーションなどのトレンドから、Conferencing(会議)よりも、Collaboration(共同作業)という意味合いで使われることもある。

業績発表-海外

NASDAQ 上場企業などの業績レポート 2007 年第三四半期(7 月-9 月)

ノルウェー タンバーク社



ノルウェーのビデオ会議システムメーカ タンバーク社の第三四半期の業績が発表された。過去最高の 1 億 6530 万 USD(約 184 億円)、営業利益は、3870 万 USD(約 43 億円)を達成。売上は、前年同期約 50.8%増を示し、当四半期の粗利益は、65.5%。

出荷台数については、15,398 台。前年同期の 10,102 台から 52.3%増となった。

地域別売上では、南北アメリカが 9,240 万 USD(約 103 億円)、EMEA(欧州、中東、アフリカ)が 5,400 万 USD(約 60 億円)、アジア太平洋は、1,890 万 USD(約 21 億円)となった。

今回の第三四半期の事業のポイントとしてはいくつかあるが、主なものとして、まず、タンバークとヒューレット・パッカー(HP)との関係。両社は、テレプレゼンスによるハイエンドレンジの拡大を行ってきたが、その一環として、タンバ

ーグ技術を利用した「HP Halo Gateway」を発表した。今後
も協業体制を継続していく考え。

次にタンバーク社による Codian 社との関係では、Codian
社の買収手続きは 9 月 24 日に完了したが、Codian の統合
は順調に進捗しているという。今回の買収の結果のひとつと
して、「TANDBERG Management Suite(タンバーク・マネー
ジメント・スイート、TMS)」が Codian の MCU をサポートした。
TMS はビデオ会議システム向けの運用管理システム。

セミナー・展示会情報

ポリコム最新 HD ソリューションセミナー ～リアルタイムとストリーミングで活用の場が広がる HD ビデオコラボレーション～

日時: 11 月 20 日(火) 15 時 30 分～
(開場:午後 3 時)

場所:ホテルニューオータニ東京
ザ・メイン アークード階「悠の間」

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/event/071120i/>

*ポリコム 2008、ポリコム社の目指す今後の方向性や
『HD ビデオコラボレーションソリューション』のデモ。

「東海」GN2 遠隔コミュニケーション技術 シンポジウム」

日時:11 月 21 日(水曜日) 13 時 30 分～17 時

会場:メイン会場:メルパルク名古屋 2階 平安の間
(名古屋市東区葵3-16-16)

サテライト会場:財団法人ソフトピアジャパン(大垣市加賀野
4-1-7)

静岡県立大学(静岡市駿河区谷田52-1)

主催:総務省東海総合通信局、東海JGN2推進協議会

後援:独立行政法人情報通信研究機構

詳細・申込:

<http://www.tokai-bt.soumu.go.jp/tool/kohosiryu/hodo/19/10/1024.htm>

新製品発表セミナー:もはやビデオ会議&コミュニ ケーションも HD(ハイビジョン)の時代に!

日時:11 月 22 日(木)14:00～(受付開始 13:30～)

会場:株式会社大塚商会 ITソリューションセンター大阪
7F

(大阪市北区大淀南 1-10-6)

主催:株式会社大塚商会

協賛:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:

<http://it.otsuka-bs.co.jp/otsuka/event/bb1122/>

テレワーク国際シンポジウム ～テレワークによるワーク・ライフ・バランスの実現 と生産性の向上をめざして～

日時:11 月 28 日(水) 10 時～17 時 40 分

会場:経団連ホール

主催:総務省

協力:社団法人日本テレワーク協会、

テレワーク推進フォーラム

後援予定:日本テレワーク学会

*日本と北米、欧州のテレワーク専門家が集い各国のテ
レワーク事情を報告する。(英語・日本語)

詳細・申込:

<http://www.japan-telework.or.jp/info/sympo2007.html>

編集後記

今回はユニファイド・コミュニケーション関係を中心にレポ
ートしましたが、次回はテレビ会議システム、テレプレゼン
スの新製品が各社から出ていますので、それらを中心に
レポートします。

日経 BP 社ビジュアル・コミュニケーション 2007 のレポ
ートですが、また別途次回以降に行います。ご了承ください

今後の発行予定ですが今年は、12 月 15 日号で終了し、
来年は 1 月 15 日号から開始の予定です。

今後とも宜しくお願い致します。

橋本啓介